

# チャレンジコミュニティ



Challenge Community Club

# 通信 第54号

2025.8 vol.54



2025 年第 10 回総会・ホームカミングデイ



赤坂迎賓館見学



2024 年度 17 期生修了式

## CONTENTS ■ごあいさつ

港区長

明治学院大学学長

CCクラブ代表

清家 愛

今尾 真

阿部 令子

- 2025 年度 CCクラブ新体制の紹介
- 2025 年第 10 回CCクラブ総会・ホームカミングデイ
- チャレンジコミュニティ大学アドバンスコース開校
- 学ぶ喜びと出会いをありがとう！  
～17期生から寄せられた声～
- 赤坂迎賓館見学
- 明治学院高等学校総合家庭科授業協力
- 運営委員会報告

■港区長 清家 愛

2 \_ま、こんにちは。

チャレンジコミュニティ大学学長を務めております、港区長の清家愛です。



日頃から地域のコミュニティリーダーとして地域の課題解決や活性化に多大なご尽力をいただき、心より御礼申し上げます。

チャレンジコミュニティ大学で学んだことを生かして、大学生との協働によるボランティア活動、自身が経験してきたお手玉やけん玉などの昔遊びを子どもたちに伝える活動、地域の誰もが気軽に参加できるカフェの開催など、地域コミュニティの活性化に大いに貢献していただき、大変嬉しく思います。

そのほかにも町会・自治会活動やNPO法人、ボランティア団体への参画などの地域福祉活動、区民参画組織への参画により、地域課題の解決にも取り組んでいただいております。

チャレンジコミュニティ・クラブの皆様にはこれまで地域に根差した交流と学びの場の創出やまた、地域課題の解決に皆一丸となって尽力いただき、大変感謝しております。こうして皆さまが地域の行事や区との協働事業などに積極的に関わってくださることが、「港区のまちの力」となっていると感じております。

区は、地域の課題を自ら解決できるコミュニティをつくることを基本政策として掲げ、コミュニティ活動を担う方への支援やコミュニティ活動の機会の充実などに取り組んでいます。これからも皆さまに地域活動のリーダーとして活躍していただけるよう支援し、新しい挑戦を応援してまいります。

チャレンジコミュニティ・クラブの益々のご発展と、皆さまのご健康とご活躍を心から祈念いたします。

■明治学院大学学長 今尾 真

明治学院大学学長の今尾真です。本学を学び舎として巣立られた皆さまに、お礼とご挨拶をさせていただきます。



チャレンジコミュニティ大学（以下、「CC大学」とする）は、2007年の開学から早いもので2025年には19年目を迎える（コロナ禍で1年中断）、本年も60名の18期生を迎えるとともに、2024年度プレ実施されたCC大学大学院が本年度から正式に開設され、チャレンジコミュニティ・クラブ（以下、「CCクラブ」とする）会員の中から向学心に燃えた5名の方々が入学し、ますます盛んになっております。これも皆さまのご活躍と徳恵の賜物と思っております。この場を借りてお礼申し上げます。

また、2008年から発足したCCクラブも、18年もの長きにわたり活動され、多くの会員の皆さまが地域活動の担い手として、活発に活躍されていることを大変喜ばしく思います。現在、1000名近くのCCクラブ会員が、CC大学で学んだことを活かし、いろいろな部会を組織して港区の各地区で、各方面において地域コミュニティ活性化のリーダーとして活躍していることを耳にしますと、とても嬉しく思います。実際に、港区本庁舎・各地区総合支所および会議・委員会あるいは本学で皆さまにお目にかかり、お声掛けいただいたときの喜びは各別です。

さて、CC大学は、2026年には創設20年を迎えます。本年度は、20周年行事に向けて、港区はもとより本学およびCCクラブもいろいろな企画立案と準備をする年にあたります。私としましては、これまでのCC大学20年を振り返り、これから先の10年、20年のCC大学の存続・発展を期すため、20周年をお祝いする記念行事を盛大に催したいと考えております。これにご賛同いただくとともに、皆さまの熱い思いとお力をお借りして、是非この企画を成功させたいと思います。ご尽力とご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後に一言、いつものフレーズを申し上げます。「皆さまの母校は、明治学院大学＝CC大学」です。皆さまの活躍は母校の誇りでもあります。また、皆さまもこのことを自覚してさらなる活動の輪を広げていただくことを期待しております。今後ますますのご活躍とご発展を祈念いたします。



## 新年度にあたって

■CCクラブ代表

阿部 令子 (10 期)

新たに17期生をお迎えして、新年度がスタートしました。

また、役員会にも2名の新メンバーが加わり、私自身も2期目の代表職を仰せつかり、気持ちも新たにCCクラブの運営に取り組んでまいります。



2024年度は、計画された活動もつつがなく実行され、多くの会員に参加協力していただくことができました。また、港区と連携した活動や、港区社会福祉協議会をはじめとした区の関連団体との協働も進んでいます。第5次港区地域福祉活動計画（後期）においては、福祉活動を繋げる区民の取り組み例として町会・自治会と並んでCCクラブも表記されました。CCクラブの存在意義を認めていただけたのも誇らしく、日頃より地道な活動を、さまざまな場面で繰り広げている会員が大勢いらっしゃるお陰と感謝しております。ご自分のやりたい事を見つけ、楽しそうに元気に活動している皆さまに接していると、「やりがい」を持ち毎日を過ごすことの大切さに気付かされます。と同時に、CC大学を修了してからもそれぞれの事情によりCCクラブから離れておられる方にも思いを馳せ、こうしてCC通信を手にとって新しい情報を受け取っていただき、ときにはホームページを覗いてCCクラブの活動の様子をご覧くださいれば幸いです。

来年は、CC大学20周年となります。会員数も800名を越え、大きな組織となりました。今後も持続可能な組織を目指して、運営の見直しを図りながら前進するためにも多くのご協力とお知恵を拝借したいと考えています。

港区・明治学院大学・港区関連団体など、多くの方々との繋がりを大切にしながら、CCクラブ会員が益々活躍いただけるように、尽力させていただきます。

ご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## チャレンジコミュニティ通信は、

### 地域活動推進の情報を提供します

港区は、2007年4月に地域活動のリーダーを養成することを目的として、明治学院大学との連携により、チャレンジコミュニティ大学を開設しました。この大学は港区在住の60歳以上の方を対象に各々がこれまで培ってきた知識・経験を地域に生かし、生きがいのある豊かな人生を創造し、また学習を通じて個々の能力を再開発することを目指して創設されました。

2008年3月、第1期生の修了を機に自主的な運営組織として、チャレンジコミュニティ・クラブ(略称CCクラブ)が創設されました。この大学で学んだ知識を活用し、地域課題の解決に向け、会員が地域活動を推進することを目的としています。このクラブは地域活動のリーダーを育て、港区のまちづくりや地域ネットワークの構築を進め、併せて各人の資質の向上をはかっていきます。

この目的に沿って、CCクラブ会員が自主的に地域活動をしています。地域活動推進の情報提供や活動状況を紹介するため、チャレンジコミュニティ通信を発行しています。

年間を通しての全体活動として、主な活動は以下のようなものがあります。

- ・総会、ホームカミングデイ
- ・明治学院大学との協働活動
- ・みなと区民まつりへの参加や港区との協働活動
- ・港区社会福祉協議会地域福祉フォーラムの運営協力や協働活動
- ・活動報告会

また、地域での活動として各地域CCクラブでの活動や多くの活動機会ができています。

- ・芝CCクラブ(芝地区)
- ・明虹会(芝浦・港南・台場地区)
- ・高輪地区CCクラブ(高輪地区)
- ・3Aクラブ(麻布・赤坂・青山地区)

様々な機会を通してご自分でできることを探しチャレンジしてみてください。

また、会員相互の情報としては、各団体等での会員の活躍状況や、クラブ企画の講演会・講習会、施設見学会の開催案内等を適宜紹介していきます。

## 2025年度CCクラブ新体制の紹介

### 副代表

瀬能 正実 (10期)

2023年度に副代表に選任され、今年度は2期目(3年目)を迎えます。この2年は試行錯誤の中、阿部代表のお手伝いをし、組織の運営がスムーズに進むことを重点課題にしてきました。今やCCクラブ会員数が800余名と大きくなっており、会員の皆様が興味を持つ分野、目指すところ又運営部門への期待も種々様々です。月1回開催される役員会では皆様の期待に応えられるよう、各部長が力をあわせて討議してまいる所存です。そして、運営委員会でも各運営委員の声を聞き、できる限り皆様の声が反映されるよう努めていくようにします。又、対外的活動支援には各地区CCクラブよりのご協力も重要なことでもあり、運営委員会・地区会議を通じて情報交換はじめお話しできればと思っています。

そしてメンバーが行う地域活動の充実につながるよう注力する所存です。



### 副代表

金原 智子 (10期)

この度2025年度の副代表に選任されました。

私は10期生で、ちょうどCC大学も10年という節目を迎えた年でした。CC大学修了後は運営委員や地域連携部会などのCCクラブの活動に参加してきました。途中の新型コロナ禍は日々の営みを大きく制限させましたが、CC大学やCCクラブで得た絆は、何より大切なものでした。まもなくCC大学は開校20周年という大きな節目を迎えます。新しくCCクラブ会員になられた16期や17期の皆様は積極的に活動に意欲をもっておられると伺っています。私は自分の周りから聞こえてくる小さな声に耳を傾け、CCクラブの活動がより多くの皆様と共に続いていきますように、このような新しい世代の方々にスムーズにバトンを渡していくことが出来ますように役員の皆様や先輩方のご意見を賜りながら務めて参りたいと思います。



### 企画部会

太田 則義 (7期)

いろいろな活動が戻ってきた2024年度に、企画部会は様々な企画を立案し活動しました。春と秋のまち歩き、総会・ホームカミングデイ、活動報告会の運営協力、学ぶ会、社会福祉協議会、ういケアみなとと連携した講習会などで活躍しました。

2025年度は部会員が26名になり、そのうち過半数が15期～17期の会員です。グループで選出された方と自主的に参加されている方もいて、一年だけでなく継続して部会活動に参加する方が増えてきています(写真は部会キックオフの写真で全員が写っていません)。今年度は昨年からはじめたチーム制を継続して活性化させていきます。

今年度はコロナ禍に中断した企画も復活します。皆様のご協力をいただきながら、楽しくそしてCCクラブ運営に貢献できる企画部会にしたいと思います。よろしくお願いいたします。



### ホームページ部会

阿部 正人 (15期)

今年度は部会長・副部会長が交代し、新たに1名の部員(17期)を迎え総勢10名で活動を開始いたしました。CCクラブホームページはCCクラブ会員ならびに地域への情報発信の場であり、会員間の相互の情報交換の場でもあります。一方、会員の日頃の活動の記録や諸会議の議事録などを保管するアーカイブ機能も担っております。運営委員会・各部会・地域CC会議・各期各グループの活動状況などをタイムリーに発信し、その足跡を記録し保管することを重要な任務としています。今年度もホームページの更なる充実と普及を目標にして活動致します。さらに、昨年度より『スマホ・パソコン月例相談会』を開催し、会員及び地域の皆様のデジタルスキルアップ向上を図っています。

会員の皆様はホームページを開いて、情報収集や発信をして頂き、また我々ホームページ部員は、皆様からの投稿をご支援できるように編集スキルアップに努めます。





## 会報部会 瀬能 正実 (10期)

新年度の会報部会は、これまでの10名の部会員、そして新たに17期生の3名の方々を迎え、総勢13名でのスタートです。少人数ながら、個性豊かなメンバーで大変心強く、新たな船出となりました。

今年度も、7月末と来年の3月のCCクラブ通信発刊へ向けて、原則月一回の定期部会を行い、情報の共有、そして編集会議を行ってまいります。

主に、港区、明治学院大学関係者の挨拶と、CCクラブの活動内容を掲載いたします。また、港区内で行われる各種行事やイベントへの参加を通して、原稿作成いたします。

CCクラブ通信の一つ一つの記事、文面一字一句を、部会員で意見交換しながら協力しあって、一つの号が印刷され、CCクラブ会員皆様のお手元に届けられます。

この通信が、皆様の日々の活動に役立つ発信であることを願っています。



## 地域連携部会 大友 登喜雄 (15期)

今年度より金原さんの後任として部会長に就任しました。明るく楽しい部会運営を心掛けますので、引き続き会員各位のご協力をお願いします。

部会員は17期生3名を迎え15名です。定例部会を毎月開催し意見交換や情報共有を行い、各自が参加したい活動に取り組んでいます。また明学や支所協働推進課、港社協等と連携を図り、年4回「地区CC会議」を主催しています。

当部会は会員の諸活動の紹介や各地域活動の連携を図ることが目的です。主な活動は①クローズアップCC；会員の地域活動取材しHPに掲載し

ます。②1 Day for Others；港社協実施の「バリアフリーマップ作成」とNPO 法人みなと外遊びの会実施の「高輪森の公園・プレイパーク遊び」に、明学生のボランティア活動の一環として参加・体験してもらい、また秋には18期生にも呼びかけます。③昔遊び継承；各地区CCと連携し小学生らと一緒に「コマやお手玉、めんこや羽根つき」等を楽しみながら昔遊び継承のお手伝いをしています。



## 総務部会 池上 繁夫 (15期)

総務部会の大切な役割はCCクラブの運営がスムーズに行われるようにすることです。毎月開催する運営委員会の資料の作成や議事録を残すことを始め、出欠の確認や受付業務も担当しています。

また活動報告会や総会(ホームカミングデイ・交流会)でも同様な業務を行っております。さらに、一斉メールで会員に配信を行っている関係からメールアドレスの管理も大事な業務です。転居や退会された方やお亡くなりになった会員もいらっしゃるので名簿のチェックも行っています。後方支援的なイメージを持たれるかもしれませんが、毎月ゆかしの杜で開催する部会は和気あいあいとして楽しい雰囲気の中で行われています。

今期は17期生やカムバックされた部員が入会されたので歓迎会をお洒落な海上レストランで行い親睦を深めました。

今後は総務部会独自の企画も立案して、より明るく楽しい総務部会にしたいと思っておりますので宜しくお願い致します。



## 2025 年第 10 回 CC クラブ 総会・ホームカミングデイ

2025 年第 10 回 CC クラブ 総会・ホームカミングデイは、明治学院大学 3201 教室とパレットゾーンにて 6 月 21 日（土）13 時 30 分～18 時 30 分で開催されました。総会には会員 89 名、来賓 13 名、ホームカミングデイの講演会には会員 93 名、18 期生 6 名、来賓 14 名が参加し、パレットゾーン 2 階で行われた交流会には会員 72 名、来賓 9 名が参加しました。現在の会員数は 822 名です。

総会は、13 時 30 分に松嶋恵美子副代表（10 期）の司会で始まりました。

### CC クラブ 阿部令子代表（10 期）挨拶

チャレンジコミュニティ大学が創立されて 20 年になろうとしています。毎年多くの修了生が加わり、チャレンジコミュニティ・クラブも 800 名を超える会員数となりました。CC クラブ会員は、地域での小さなボランティアから地域活動を担うお手伝いまで、様々な場面で活動しています。地域で活躍する会員を支援、多くの仲間とともに、地域貢献活動を続けていきたいと思えます。将来を見据え、今、私たちは何をしたら良いのか悩み、考えながら、この先も 10 年、20 年と続く持続可能な CC クラブを目指していきましょう。そのためにも、引き続き多くの会員からご意見をいただき、運営にもかかわりを持っていただけるように努めていきたいと思っています。ご協力のほどお願いいたします。



### 港区高輪地区総合支所長 白井隆司様挨拶

チャレンジコミュニティ・クラブの皆様方には、日ごろから様々な地域活動に積極的に参加していただきお礼申し上げます。本日の講演のテーマである「人生 100 年時代」と言われたときに、国の厚生労働省の検討会で重要な項目の中の 2 つが気になっていまして、一つは 100 年という長い期間を充実したものにするために生涯にわたる学習が重要であること、もう一つは高齢者や若者のすべての人たちが元気に活躍できる社会が重要であるということ、この 2 つは正に CC クラブの皆様が活動そのものであると思っています。高輪地区総合支所は引き続き皆様の活動を支援してまいります。



### 明治学院大学学長特別補佐名誉教授チャレンジコミュニティクラブ顧問 河合克義様挨拶

チャレンジコミュニティ大学を立ち上げる時にどのくらいやればいいですかと聞かれ 10 年くらいと答えたのですが、皆様の強い要望により続けて、もう 20 年になります。当初 60 代、70 代が中心でしたが、人生 100 年時代になると 80 代、90 代が連携するかもしれません。今年から CC 大学の大学院が定員 5 名でスタートできました。港区の事業として明治学院大学との連携で行っていますが、一年間学んだことを何らかの形で皆さんにお知らせしたいと思っています。



来賓の挨拶の後に、港区議会議員玉木まこと様、明治学院大学学長室次長加畑慎一様、同社会連携課主任遠藤孝雄様、同青木洋治様、港区高輪地区総合支所協働推進課長本城典子様、同地区政策担当係長大野香乃子様、港区社会福祉協議会事務局長長谷川浩義様、同地域福祉係長加藤三奈様、港区立介護予防総合センター長江成務様、同副センター長柘堀賀江様、帝京平成大学健康医療スポーツ学部准教授石川由美様が紹介されました。

## 2025 年第 10 回 CC クラブ 総会

松嶋副代表が進行役を務め総会が開始されました。当日の出席者の報告に続き、規約により阿部令子代表が議長となり開始されました。

第 1 号議案 2024 年度活動実績について、阿部代表より詳細な活動内容と会計内容の説明があり、拍手により賛成多数で承認されました。第 2 号議案 2025 年度活動計画（案）については、活動方針、活動テーマ、運営部門の計画、各部会のメンバーと計画、そして地域 CC クラブの計画の説明があり、拍手により承認されました。第 3 号議案（役員選任）も承認され、総会終了後、役員 7 名が壇上に上がり自己紹介をしました。

総会資料はホームページをご覧ください。



## ホームカミングデイ 講演会

冒頭、新たに選任された金原智子副代表の進行により、CCクラブ阿部令子代表から講師の紹介がありました。

港区保健福祉支援部高齢者支援課介護予防推進係長の佐川好美様は、日々、私たちの健康維持や、いつまでも元気に楽しく毎日を過ごせるように、区民の介護予防について考えてくださっています。今日も耳寄り情報をいただけることと楽しみにしています。

そして、皆様にも馴染み深い、港区立介護予防総合センター「ラクっちゃ」から、副センター長の柘堀賀江様にお越しいただきました。本日は介護予防の手立てを詳しく、わかりやすく教えてくださいます。

### 健康で元気に！ 人生100年時代を生き抜くための 介護予防術！

講演者 ラクっちゃ副センター長 柘堀 賀江



はじめに、佐川係長から港区の高齢者サービスについての詳細な説明がありました。引き続き

いて柘堀副センター長の講演が始まりました。

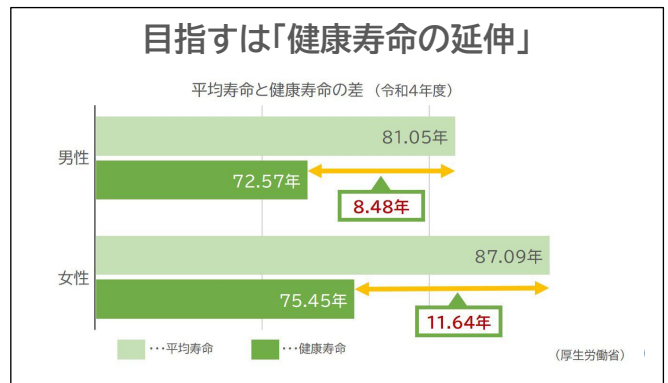
#### 介護予防とは

要介護状態の発生をできる限り防ぐ  
(遅らせる)こと、  
そして要介護状態にあっても  
その重度化をできる限り防ぐこと  
さらには軽減を目指すこと

皆さん介護予防という言葉、またはフレイル予防という言葉聞いたことがありますか。

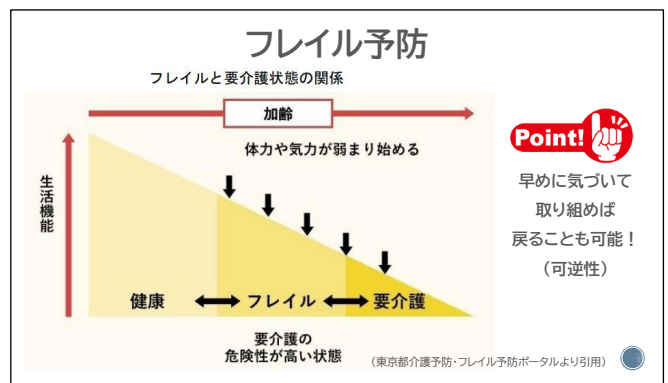
介護予防の一番の目的は健康寿命の延伸です。自立して生きられるのを健康寿命といいます、男女でどのくらい差があるかというのを次の表は

示しています。

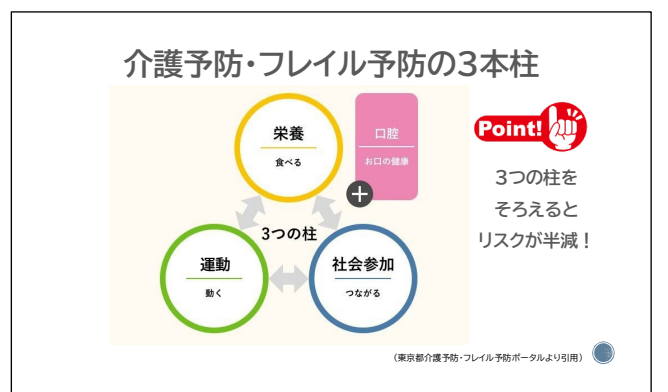


最近では平均寿命と健康寿命の差が3~4ヵ月縮まってきています。これからもどんどん縮まってくると思います。是非皆さん、平均寿命に加えて健康寿命について覚えておいていただきたいと思います。

介護が必要になった主な原因は、男性が脳血管疾患で、女性は認知症です。男女合わせると一番多いのが認知症、その次に多いのが脳血管疾患というほかは、転倒骨折、高齢による衰弱です。そこで介護予防と合わせて必要となってくるのが、フレイル予防です。



上の図で右へ下へがってきていますが、これは人の機能が坂道を転がるように低下していきますよという図ですが、健康から要介護となるまでの中間が、フレイルになります。



このフレイルの時に早めにその機能低下に気づいて的確な取り組みをすることによってそれ以上

進むことをストップすることもできるし、もしくは矢印が右を向いているのを戻すことも可能です。これを可逆性といいます。これがフレイルの特徴です。フレイルは身体だけではありません。そこでフレイルチェックをしてみましょう。

### からだにどんな変化がおこるのか

簡易フレイルチェック (改訂日本版フレイル基準(J-CHS基準))

6か月間で2~3kgの(意図しない)体重減少がありましたか	1. はい	0. いいえ
握力:男性<28kg、女性<18kg ですか	1. はい	0. いいえ
(ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがしますか	1. はい	0. いいえ
以前に比べて歩くのが遅くなったと感じますか	1. はい	0. いいえ
①軽い運動・体操 ②定期的な運動・スポーツをしていますか ※どちらか一方でもあてはまれば「はい」	0. はい	1. いいえ

**3点以上** →フレイルが始まっているかも!?  
**1~2点** →フレイル予備軍(プレフレイル)  
**0点** →健常

### 介護予防・フレイル予防の3本柱



(東京都介護予防・フレイル予防ポータルより引用)

### 人生100年時代を生き抜くための 介護予防術!

- ①3つの柱の中で、運動が一番最初に取り組んだ方がよい  
⇒老年症候群の予防すべてに運動が関与
- ②三日坊主をする
- ③呼吸を見直そう  
⇒人が生まれてすぐすること、それは…

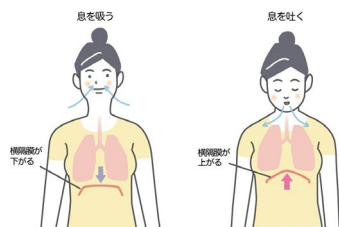
### 呼吸を制すものは、姿勢を制す!

〈呼吸筋〉

- ・横隔膜 ・腹横筋
- ・多裂筋 ・骨盤底筋

天然のコルセット

姿勢が安定、美姿勢に



骨盤底筋が床で、腹横筋が壁で、横隔膜が屋根ですね。真ん中の大黒柱を支えるのが多裂筋。家みたいになっているのでフォアハウスというのです。これは、天然のコルセットと呼ばれています。

### 人生100年時代を生き抜くための 介護予防術!

- ①積極的に食べたい10食品群
- ②毎食、必ず片手分のたんぱく質を
- ③欠食せず、3食食べましょう (補食を活用)
- ④歯みがきついでに口腔体操

栄養 & 口腔編

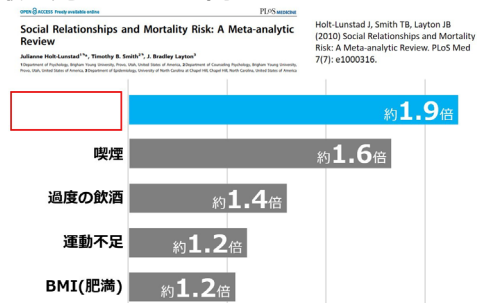
### 人生100年時代を生き抜くための 介護予防術!

- ①楽しみながら、自らすすんでできる活動を見つけましょう
- ②あいさつ + ひと言 にチャレンジ!

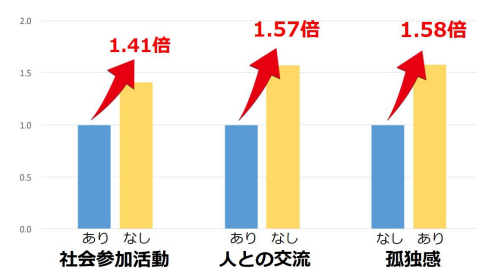
社会参加編



### Q:最も死亡リスクが高いライフスタイルは?



### Q:社会的つながりが少ないと〇〇〇になりやすい



□は「人とのつながり」〇〇〇は「認知症」です。講演の途中にはいきいき体操指導員の皆さんの指導により会場全体で体操をしました。



東京タワーのように高く真っ直ぐ手を伸ばして!



## 交流会

交流会は2月の活動報告会に続き開催されましたが、瀬能正実（10期）副代表が司会を務め、阿部代表、明治学院大学加畑様、高輪支所本城様の挨拶に続いて河合先生の乾杯で始まりました。会のなかでは17期の方が自己紹介をし、帝京平成大学石川先生の挨拶もあり、歓談が続き、2期生が代表して挨拶されお開きとなりました。記念撮影もあり和やかで楽しい1時間30分でした。



明治学院大学 加畑様



高輪支所 本城様

河合先生



17期生の皆さん



1～3期生の皆さん

## チャレンジコミュニティ大学 アドバンストコース開校

CC大学アドバンストコースは2024年9月にCC大学の修了生が、さらに学びを深めて、自らの行う地域活動においてその力をより一層発揮していただくことを目的として、募集が行われ、5名の会員が入学しました。

2024年度は明治学院大学が2025年度からの本格実施に向けて、試行的に独自で募集し、半年間で実施されました。カリキュラムは11月13日の入学式から3月5日の修了式までの間の全17講座でした。講座内容は貧困、買い物困難者問題、自治体連携、憲法25条と文化権、日本とフランスの文化の問題、住民自治、環境問題など多岐に亘りました。その間には2回のフィールドワークが行われ、そのうちの一つは人口500人の山梨県丹波山村に1泊2日での訪問でした。CC大学の授業とは違いゼミが行われ、最終的には研究論文を各自が発表し、半年間のCC大学アドバンストコースは修了しました。



CC大学4期から15期のCCA受講生たち

## チャレンジコミュニティ大学 大学院開校

2025年6月に港区と明治学院大学が連携したチャレンジコミュニティ大学大学院が開校しました。全CCクラブ会員を対象に募集が4月に行われ、小論文等の書類選考後、面接試験が行われました。

入学式は6月10日に清家愛港区長、今尾真明治学院大学長、港区、明治学院大学関係者と受講生5名が参加して行われました。これから3月の修了式までの新しい学びが始まりました。

# 学ぶ喜びと出会いをありがとう！

## ～17期生から寄せられた声～

一年間のCC大学では、私が今まで経験して忘れていたり、過去に学んだ事を振り返る良い機会となりました。普段の生活の中で忘れていたりした事を基本から思い起こす良い機会でした。これらの経験を元に身近な人たちの「つぶやき」に耳を傾け地域での行動に移すことができる様、更なる経験を積み上げていきたいと思っております。

石川 洋

赤坂・青山で民生、町会、消防団、街歩きの会など活動をしていく中で港区のことをもっと知りたいという思いでCC大学を受講しました。講義は多岐にわたり、高齢者福祉、児童福祉、港区行政、健康・スポーツ、美術、一般教養などどれも興味深く、人生一生学びだと改めて感じました。これからはCC大学で学んだことを自分自身の健康のため、港区のため、活かしてまいりたいと思っております。

萩原 雅子



### 入学式

あっという間に終わった一年間でした。どの講義も好奇心を刺激してくれる内容で仕事や諸事情で休んだ時は残念でした。そしてグループでの活動はコミュニケーションが取りやすく、今後もCCクラブの活動以外でも付き合える友人が出来ました。現在まだ、仕事も継続しているので可能などころでのCCクラブ活動を行いたいと考えております。

M. U.

CC大学で様々な専門分野の先生方の授業を受けられたことはとても貴重な経験でした。現役の頃には、ほとんど知らなかった区の現状や課題を知ることができたのは、大きな成果です。地域に貢献するために何をすればよいかは、まだ明確になっていません。今まで培った経験を

生かすことができる場を、早く見つけていきたいと思っております。

N. U.

CC大学の講義は多岐にわたり、大変充実した内容で、新たな発見の多い一年間でした。「福祉」や「行政」、「法律」、「スポーツ」の講義は、自身の生活に直結していて大変有意義でした。また、港区についても理解が深まりました。地域活動への関心が益々高まり、地域住民で助け合う「共助」の重要性も実感しました。今後は様々な場面で、この学びを生かして活動していきたいと思っております。

小林眞由美



### スポーツ実習

一年間CC大学で、様々な分野の講義を素晴らしい先生方から受ける事が出来た事を大変感謝しております。見学、自然探索なども有意義なものでした。今後は新しく出会った友と一緒にまずは自身も楽しみながら地域作りの活動をしていけたらと思っております。

S. T.

最初に、河合先生、黒田先生を始め明治学院大学及び港区の担当者、全ての関係者の皆様にご挨拶申し上げます。今後は、CC大学で学んだ事を地域に還元出来る様に様々な方向にアンテナを張り、「今日行くところがある、今日用がある＝きょういく きょうよう」を多くの人々と体験・体感し、繋がる喜び・安心・安全を共有出来る様に、微力ですが活動してまいります。

関口 清美

高齢化社会等色々な講義をありがとうございました。チーム AKY (麻布介護予防)、野ばら、白金の森、南麻布の各介護施設の入居者と月2～3回歌ってきました。これからも続けます。



白金地域では防災、祭りに参加しています。

田丸 春美

講義は多岐にわたり、今まで関わりが無かった内容も多く、自分の興味範囲がすごく広がったと思う。これからの人生をより楽しく、有意義に送ることが出来そう。また、ちょうど65才の節目を迎える年齢にあり、社会福祉関係の法律について学ぶことが出来、社会的責任や納税意識の向上につながった。さらに、これまでは地域の方とは交流が無かったが、人の繋がりも出来そうでした。

西本 利一



文化財見学（増上寺）

とても充実した一年間でした。福祉を中心に多岐に渡った内容で、選りすぐりの先生方の素晴らしい講義を受けることができました。17期のたくさんの方とも知り合えました。この先、孤立することなくコミュニティを作っていくことの大事さを痛感しました。港区の現状を初めて知り、今までボランティア経験はありませんが、自分に何が出来るのか？ということを考えるきっかけになりました。

平原由紀子

多岐にわたる分野の講義の中で、関心のある分野や実用的な法律の講義は充実感満載でした。机上空論とはならないよう、その学びを先ずは身近な地域貢献、特に独居老人が抱える問題等から始め、この一年間に築いたコミュニティを活用しながら活動を広げる事を目的とします。充実した一年間を過ごさせていただきありがとうございました。

Y. F.

CC大学の意義の深さに感銘を受けました。地域社会の問題提起、環境、生活と行政のきめ細かな施策と対策を補うボランティアの活動を産官学民協働で行う。その原点ともいえる教育

プログラムに参加、修了できたことが大きな財産になった。これから自身が何をすべきか、ともに学んだ同期の皆様、CCクラブの皆様、大学、行政の皆様の助言を頂きながら、地域社会に貢献していきたいと思えます。

R. H.

アツと言う間の一年でした。福祉、文学、美術、スポーツと幅広く学び、港区の現状、これからを知る事ができました。特に「佐久地域の取り組み」、「沢内村の医療と地域づくり」は実行力のあるリーダーの存在が大きく、その後を継いで現在があることから、リーダーをつくる役割を担っているのが『CC大学』だと、改めて心が引き締められました。地域コミュニティをいかに形成するかで、港区に住んで良かったと感じ、地震などの防災力も高めるには、地域コミュニティをどのように形成するか、が大事だと思います。

K. Y.



文化財見学（チャペル）

一年間のCC大学で今まで知らなかった事や自分の興味以外の事を知り、又理解する事により視野が広がり、そして多くの方とのコミュニケーションから新しいお仲間と出会いました。これらの事で私の行動範囲が広がりこれからの人生がより有意義で楽しいものとなると思えます。あつという間の一年間でした。

江原みどり

CC大学での一年はあつという間でした。会社員時代はあまり馴染みのなかった福祉分野を中心に、知識、経験豊かな講師陣の貴重なお話を聞くことができました。親族に要介護者がいる私にとって参考になる話もありました。なお、現在、私はケガのため自宅静養中で地域活動への参加が難しいところです。可能な範囲で少しずつ参加できればと思います。

H. K.

講義内容が多岐に渡っていて、一流の先生方が一から説明してくださいました。今まで苦手意識から敬遠しがちだった分野も、実生活に則したお話をしていただいたおかげで理解しやすく、さらに興味を持つことができたと感じます。これからも学ぶことを諦めず、学んだことを活かせるよう努力していきたいと思います。

善波 理子



### 港区議会棟見学

私、初めCC大学で学ぶ事に少し不安な気持ちでバスで通学致しました。しかし、そのバスで色々な人生を経験された方々とお会いしお話し出来て、あの不安が楽しさになり、教室での授業も充実した新たな学びの場になりました。これからはCC大学で学んだ色々な事をボランティアとして地域活動にお役に立てればと思います。CC大学を運営して下さいましたスタッフの皆様へ感謝しております。

N. R.

今思い返せば、港区と明治学院大学の双方協力の元、区民が安心して自分らしく暮らしていく為の学びだったと、強く感じます。全ての講義に対し、気付きや、納得や、得心する機会が数々あったと思わざるを得ません。又、CC大学を通じて、経験豊かなクラスメートとの出会いは、年齢を重ねた私たちに大きな財産として残りました。これからは健康に留意し、地域活動への参加や、何かお役に立てるよう頑張りたいと思います。

C. F.

信じられないくらい大切にしてくださいました、とても贅沢な、あっという間の一年でした。素晴らしい授業、貴重な歴史の見学、何十年ぶりのバス遠足、合宿など、先生や支えてくださったみなさまの温かさや情熱が溢れていました。知識、経験、行動力の豊かな方々と過ごし、自分の未熟さを認識もいたしました。この一年へ

の感謝を忘れず、謙虚に学び、お役に立てる道をさがしたいと思います。

Y. F.

退職後、今後の目標と自分らしく生きる事を探求している時にCC大学の存在を知った。幅広い講義内容に刺激を受け、これまでに経験してきた実生活や実社会を客観的に見直せ「自分が何をすべきか、何をやりたいのか」を再認識した事は有意義でした。今後、CC大学での出会い、学びを大切にしたいです。

横井 喜子

CC大学の一年間には、生涯を通じて大切にしたい学友たち、そして座右の銘=Do for Othersとの出会いがありました。そこは、歳を重ねてこそ実感できる学ぶ喜びや新たな自分発見の高揚感と、今後のライフワーク、社会へのお役立ちをして行くことに繋がる着想を得る機会に溢れていました。CCクラブでは、小さなことからでも着実に、仲間の皆様と実現を目指して行きます。

大場 恒雄



### 福祉施設見学

CC大学での一年は、新しい知識や価値観に触れ、ポジティブなエネルギーを持つ素敵な方たちと出会えた刺激的で貴重な時間でした。先生方の教えや“Do for Others”の精神を実践するクラスメートの姿から多くの気づきと希望を頂き、前向きに愉快地生きていくヒントや繋がりを得ることができました。これからは小さな一歩から地域に貢献を重ねていきたいです。

安岡 香

緊張の入学式からはや一年、あっという間でしたが、人生の中で最もと言っていいくらい充実した一年間でした。期待通りのカリキュラムでしたし、グループや仲間にも恵まれました。何よりも自分はまだまだこれからだと前向きな気持ちになれたことが大きな収穫でした。この



気合と学びを活かし、今後は色々な活動を通じて社会に貢献していきたいと思っております。

秋葉 有紀

CC大学入学を希望したのは、今！何かしたい。何が出来るか？ボランティアを通じて、傾聴が上手に出来る方法は？勉強に縁のなかった(してこなかった)私なので、申し込みましたが、本当に難しい勉強ばかりで、何も分かりませんでした。でも色々な方達に出会えた事には、感謝です。お声を掛けて頂き嬉しかったので、自分からも、お声掛けが出来る様にこれからも、チャレンジし続けたいと思います。本当にありがとうございました。

井筒 幸子



### 芸術鑑賞

絶対に楽しい！と勧められたCC大学。本当に楽しかったです。現実をみて多少落ち込む事も有りましたが、貴重な体験をさせて頂きました。修了式を終えた今、思う事はこれからが始まりの始まりということでしょうか…。今後、各自の道を進めていくのは大変だと思いますが、私達はCC大学愛に満ちておりますのでみんなで努力して参ります。

O. N.

地域リーダーを育てる、港区の試みに興味を持ち、誰かのために明日何が出来るかを考えていた矢先です。一年間の授業を通して、その答えと、志の高い仲間と出会うことができました。心豊かな感性を育むことができる授業と区内の知らない姿に触れることができました。そして、今、その先に興味を持ち、新しい明日を築きたいと考えています。

RUMI. O.

広報みなと令和6年12月1日号の表紙は、17期の面々。講義後なのに、にこやかで満足げな顔。CC大学の講義内容が充実しているのを容易に想像できる。「港区に知り合いを作りたい」

という私の参加目標は、一年間学ぶことで、実現できた。しかし、グループ内で話をするにつけ、自分の志の低さを実感させられたので、今後は、地域CCクラブで先輩方に感化されながら、活動に参加していきたいと思う。 Y. O.

母親が昨年1月に亡くなり介護生活の終わりを迎えました。それまでと違い全て自分時間なので日々のメリハリを付けたくて入学致しました。あっという間の一年でしたが、学びの楽しさ、新しい発見、グループメンバーの結束など素晴らしい経験と新しいご縁を頂きました。今後はCCクラブの活動や17期3グループメンバーとの連携で地域のお役に立てればと考えております。ありがとうございました。

菊池 康子

大変楽しい、有意義な一年間でした。多くの関係者の努力、協力に感謝しています。講義の分野が広範囲であったと思います。講師陣の方々の熱い思いが伝わってきます。これまでのCC大学の経緯がこうした活動に継承されていると思えました。港区と明治学院の方々のご苦労と連携を是非発展させ、港区の町づくりの一つ一つの要素を育てていきましょう。私達修了者達もお手伝いしていきます。

木下 博夫

毎週水曜日の朝8時バタバタと家を出て歩く事約20分バスを待つ。そんな忙しかった一年も無事に乗り越え皆勤賞を頂き修了出来た事を大変嬉しく、大学関係者の方々に深く感謝しております。経済、福祉、行政等の色々な授業は大変参考になり有意義でした。欲を言えば、世界各地で起きている紛争、ウクライナ、中東、アフリカ、ミャンマー等の国際情勢を学びたかったです。

小林芙美子

毎日通えるのが楽しくてあっという間の一年でした。バリエーションに富んだ講義内容を通して今自分がおかれている環境や立場を再認識する事が出来ました。CC大学に通えていなければ何も気付かず考えずボンヤリと過ごしていたと思います。手厚い対応で学ぶ機会を与えてくださった港区と明治学院大学に心から感謝いたします。かけがえのない時間を本当にありが

とうございました。

坂牧 良子

人生の自由時間を獲得し、『私に何かできる事は?』がチャレンジコミュニティ大学受講のきっかけでした。毎回の授業は、講師の方々の強い熱意を感じ、大いなる刺激をいただきました。豊かな地域づくりに参加できる事は、豊かな個々の人生をも満たしてくださると。自分の気力・体力状況を考えつつ、[食]に関わった、援農・みんなの食堂・予防医学等につながるお手伝いをできればと大学修了して思っています。チャレンジコミュニティ大学・クラブに関わるたくさんの方々に感謝しています。 RMS

50年振りの教室での受講は、大変新鮮で、楽しいものでした。当時はあまり真面目に聞いていなかった芸術文化の分野や体育（実技も含めて）を受講して、新たな取り組みをしようと思うに至りました。福祉、法律経済等の講義も興味深く、新たな知見を得ることができました。お世話になった皆様、ありがとうございました。

高橋 薫

CC大学は、地域をつなぐ素晴らしい場。マンション住まいで希薄だった関係が、共通の趣味で助け合う仲へ。経験を活かし社会貢献も可能に。一年で家族が増えたよう。地域ニーズに応える繋がりを築きたい。

チョン ドビーウィンキット

講義を受けるたびに、知らなかった自分や見落としていた世界に何度も出くわし、「こんなことも知らなかったのか」と思わずにいられませんでした。毎週魅力的な同期と過ごす中で、少

しずつ心の距離が縮まり、期待以上に濃密な時間を共有できたことが最高の収穫です。この貴重な学びと出会いを大切に、これからも皆様と一緒に歩いていけることを楽しみにしています。ありがとうございました。

樋口 靖子

私は、CC大学での講義や実地見学を通じ「福祉」や「生涯学習」の大切さを実感しました。今後は、CC大学で得た知識や経験を生かし、私自身が生きがいを感じられるような地域での活動に積極的に参加していきたいと思えます。また、CC大学を通じて出会ったモチベーションの高い多くの仲間たちと共に地域社会に貢献できることを楽しみにしています。 S.M.

長い勤めを70歳を期に退職。今後の生き方を模索していた頃、行きつけのカフェの若いオーナーからお客様が学んでいるとCC大学の存在を知りました。半世紀前とは比べようがないくらい真剣に学び、思っていたより何倍も楽しい有意義な日々を送りました。親しい友人もでき今後の生き方も話し合い、地域貢献できたらと思っています。この繋がりを皆様にも繋げたいと考えております。 Y.M.

不安と期待が入り混じった入学式。その不安は見事に裏切られました。毎週大学に行き、先生方の熱の入った講義に耳を傾け、講義後は気の合う仲間と一緒に学食で過ごす、とても有意義な一年でした。これからはCCクラブで皆様と活動を共にして心豊かな人生を過ごしたいと思っています。CC大学に関わった全ての方々に感謝申し上げます。

横山満里乃



修了式



## 赤坂迎賓館見学

5月23日（金）、昨年に続き15期第2グループの提案により、企画部会との共同開催で「迎賓館赤坂離宮」見学会が実施されました。

今回は事前募集をせずに、当日参加者が本館・庭園を参観できる入館料1500円を各自が払い、13時30分に庭園前に23名が集合して写真を撮りました。その後も各自が館内説明を聞きながら自由に参観するというかたちで行いました。

14時30分に正門出口にまた集まり集合写真を撮りました。



参観前の横田さんの説明

### 【提案者安井裕子様のご寄稿文】

迎賓館赤坂離宮が「国宝」であり一般にも公開されている、ということを一級建築士の横田重雄さんからお聞きし、「それなら是非皆さんで見学しましょう」と企画した次第です。

横田さんから迎賓館の歴史や見どころ等をお聞きしたあと絢爛豪華な本館の4つの間「花鳥の間」「彩鸞の間」「朝日の間」「羽衣の間」を見学しました。今回は事前申し込み不要で自由参加だったため、お一人でふらっと参加された方も最初の集合写真で他の方とお知り合いになり最後のカフェタイムまで楽しんでいただけたようでした。今回のように日時と場所だけを決めて自由に参加し集合写真により参加者（人数）を確認するという（緩やかな）新しいイベントの形が今後の参考になれば幸いです。



最後に正門前での集合写真

## 明治学院高等学校総合家庭科授業協力

2018年から今年で6回目になった明治学院高等学校総合家庭科授業協力を行いました。

この企画は明治学院高等学校3年生全8クラスを対象にCCクラブ会員が「自身がこれまでしたこと」と「現在何をしていて、どのような考えを持ち、日々どのような生活しているか」をスピーチします。授業は45分間で、一人7～8分で3人がスピーチしその後質疑応答が行われます。



### メモを取りながらスピーカーの話聞く生徒

今年は18人の会員から参加希望があり、6月10日から6月20日の8回の授業でスピーチしましたが、皆さんの協力で質疑応答の時間も確保され、生徒からは熱心な質問も出されて、各教室で特徴のある授業になりました。

今年の特徴として、あるスピーカーは授業後に生徒の要望があり食堂でお弁当を買って一緒に教室で昼食をしたようです。授業後に生徒からスピーカーに先生を介してスピーチ内容について個別の質問があり、その後、メールで丁寧に答えていました。また、担任の先生が授業途中から参加して、最後に質問をしていました。

この授業は生徒の高齢者に対するイメージ改善が初めの目的でありましたが、生徒の進路や人生の歩み方についての質問もあり、いろいろな意味で有意義な授業協力になっているような気がします。

終了時に来年度についても協力要請がすでにあり、できる限り継続的な協力をしていきます。



生徒の質問に答えるスピーカー

## ■運営委員会報告

2025年度の運営委員、部会員、地域CCクラブ委員は以下の通りです。

2025年度 CCクラブ運営委員会・部会メンバー

(2025年6月21日付)

代 表		阿部 令子 <sup>⑩</sup>	副 代 表		瀬能 正実 <sup>⑩</sup>	金原 智子 <sup>⑩</sup>
運営委員会	運 営 委 員		運 営 委 員		運 営 委 員	
1 期	② 吉田 秀博	10 期	① 中曾根 待子	15 期	① 谷 淳	
2 期	② 野口 美津子		② 瀬能 正実		② 安井 裕子	
3 期	② 池谷 敏雄(連)		③ 丸山 幸秀		③ 岡田 梨香	
4 期	② 平岩 力 (連)	11 期	③ 西畑 尚子	16 期	① 表 真理子	
5 期	② 呉 東富	12 期	① 馬場 宣子		② 大野 セイ子	
6 期	③ 及川 廣子	13 期	② 丸毛 昭生	17 期	③ 河本 知之	
7 期	② 太田 則義	14 期	① 高木 淳子		① 石川 洋	
8 期	① 加藤 待子		② 滝口 厚子		② 長村 良一	
9 期	③ 西田 宏子		③ 出島 由治	③ 大場 恒雄		

・(連)は連絡員

部 会	部 会 長 副部会長	部 会 員			
企画部会	太田 則義 <sup>⑦</sup> 難波 富貴 <sup>⑮</sup> (副) 久我 英二 <sup>⑮</sup> (副)	野口 美津子 <sup>②</sup>	亀卦川 純一 <sup>⑫</sup>	高橋 恵美子 <sup>⑮</sup>	松永 広 <sup>⑰</sup>
		丸山 保夫 <sup>⑦</sup>	内田 眞也 <sup>⑬</sup>	鴨下 尚子 <sup>⑮</sup>	山西 加代子 <sup>⑰</sup>
HP部会	阿部 正人 <sup>⑮</sup> 岡部 正實 <sup>⑩</sup> (副)	西田 宏子 <sup>⑨</sup>	小川 寧子 <sup>⑬</sup>	北川 範子 <sup>⑮</sup>	秋葉 有紀 <sup>⑰</sup>
		阿部 令子 <sup>⑩</sup>	清水 和美 <sup>⑬</sup>	近江 久美子 <sup>⑮</sup>	安岡 香 <sup>⑰</sup>
地域連携部会	大友 登喜雄 <sup>⑮</sup> 金原 智子 <sup>⑩</sup> (副) 丸毛 昭生 <sup>⑬</sup> (副) 大住 美佐子 <sup>⑮</sup> (副)	平田 渥美 <sup>⑫</sup>	桑原 いづみ <sup>⑭</sup>	袴田 敦子 <sup>⑮</sup>	松吉 俊治 <sup>⑰</sup>
		中嶋 博 <sup>⑫</sup>	齋藤 美加代 <sup>⑮</sup>	掛林 敦子 <sup>⑮</sup>	
会報部会	瀬能 正実 <sup>⑩</sup>	斎藤 正精 <sup>⑥</sup>	石賀 幹春 <sup>⑨</sup>	松尾 知足 <sup>⑭</sup>	横山 隆 <sup>⑮</sup>
		佐藤 紀子 <sup>⑥</sup>	福岡 哲郎 <sup>⑩</sup>	佐藤 直樹 <sup>⑮</sup>	樋口 靖子 <sup>⑰</sup>
総務部会	池上 繁夫 <sup>⑮</sup> 秋元 宏 <sup>⑧</sup> (副)	呉 東富 <sup>⑤</sup>	荒川 太 <sup>⑭</sup>	平原 由紀子 <sup>⑰</sup>	
		太田 則義 <sup>⑦</sup>	甲野 裕子 <sup>⑮</sup>	永山 貴一 <sup>⑰</sup>	
		今泉 昌代 <sup>⑩</sup>	丸山 正雄 <sup>⑮</sup>	関口 晴美 <sup>⑰</sup>	
		小杉 良子 <sup>⑭</sup>	竹内 万理子 <sup>⑮</sup>		
		古橋 義弘 <sup>①</sup>	棟方 千恵子 <sup>⑫</sup>	宇津 真治 <sup>⑮</sup>	岡田 晴行 <sup>⑰</sup>
		太田 則義 <sup>⑦</sup>	長峯 浩子 <sup>⑮</sup>	周藤 孝夫 <sup>⑮</sup>	萩原 雅子 <sup>⑰</sup>
		池畑 博実 <sup>⑩</sup> (協)	森 容子 <sup>⑮</sup>	石賀 秀行 <sup>⑮</sup>	フェントビークット <sup>⑰</sup>
		太田 則義 <sup>⑦</sup>	河野 洋子 <sup>⑫</sup>	京極 球 <sup>⑰</sup>	木下 博夫 <sup>⑰</sup>
		丸山 幸秀 <sup>⑩</sup>	吉野 由美子 <sup>⑭</sup>	大和田 るみ <sup>⑰</sup>	高橋 薫 <sup>⑰</sup>
		松嶋 恵美子 <sup>⑩</sup>	茂木 壽 <sup>⑮</sup>		

(副)は副部会長、(協)は協力部員

地 域 C C ク ラ ブ ( 運 営 委 員 )			
芝 C C ク ラ ブ	伊藤 孝昭 <sup>⑮</sup>	明虹会 (港南・芝浦・台場地域)	福岡 哲郎 <sup>⑩</sup>
高 輪 地 区 C C ク ラ ブ	久我 英二 <sup>⑮</sup>	3 A クラブ (赤坂・青山・麻布地域)	岡田 梨香 <sup>⑮</sup>

地域CCクラブ代表

地 域 C C ク ラ ブ ( 代 表 )			
芝 C C ク ラ ブ	荒川 太 <sup>⑭</sup>	明虹会 (港南・芝浦・台場地域)	斎藤 正精 <sup>⑥</sup>
高 輪 地 区 C C ク ラ ブ	太田 則義 <sup>⑦</sup>	3 A クラブ (赤坂・青山・麻布地域)	宮崎 則行 <sup>⑮</sup>

・運営委員会の●数字はグループ、それ以外の○数字は期

編集後記

ボイスレコーダーに講演内容を録音する。帰宅後、レコーダーのスイッチを入れる。雑音が入ってテープ起こしができない。…文章がうまく書けなくてAIに助けを求める。的外れな答えが返ってきて全く役に立たない。…やっと完成した原稿をパソコンに打ち込む。これで一安心と思いきや、操作ミスで全文章が消える！このような失敗を繰り返しながら早2年が経ちました。そして未だにかけだし会報部員で、日々奮闘しています。(15期 森 容子)

チャレンジコミュニティ通信 vol. 54 2025年8月1日発行

発行者 チャレンジコミュニティ・クラブ

事務局 明治学院大学 学長室社会連携課

(株式会社明治学院サービス)

〒108-0071 東京都港区白金台 1-2-37

Tel. 03-5421-1555 Fax. 03-5421-1556

Email ccclub@meijigakuin-s.co.jp

<http://www.minato-ccc.jp>

印刷協力 港区高輪地区総合支所協働推進課

会報部会員 (○数字は期)

部会長 瀬能正実<sup>⑩</sup>

部 員 古橋義弘<sup>①</sup> 太田則義<sup>⑦</sup>

棟方千恵子<sup>⑫</sup> 長峯浩子<sup>⑮</sup>

森 容子<sup>⑮</sup> 宇津真治<sup>⑮</sup>

周藤孝夫<sup>⑮</sup> 石賀秀行<sup>⑮</sup>

岡田晴行<sup>⑰</sup> 萩原雅子<sup>⑰</sup>

チョンドビーウインキット<sup>⑰</sup>

協力部員 池畑博実<sup>⑩</sup>